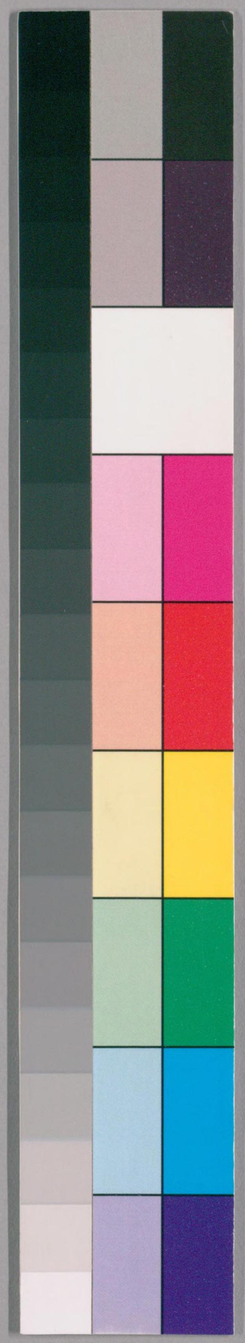
守貞漫稿

巻二十九

30
18
別
13
85/30
41



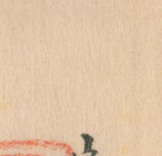
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

守貞謾稿巻之二十九



喜田川季荘尾張藩守貞誌

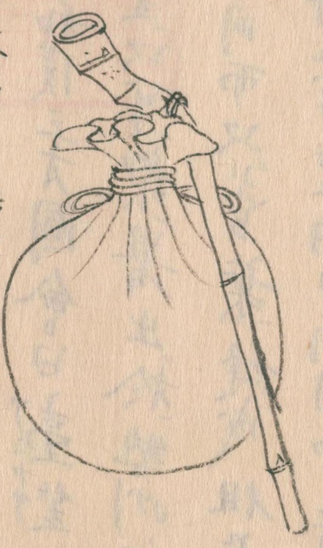
笠之事和漢二才圖會曰臺笠（アマガサ）
時曰編笠好事ノ製暑出於執州江州ノ菅笠今編莧艸作ル不用竹骨
擇笠形同而以菅葉縫成倶
以製兩耳菅笠兩日兩用而
必用之具也出於加州金澤者為上品ニシテ

墓笠

墓笠ハ笠ノ上ニ今世ノ幕府ノ帷ノ如キ物ヲ垂レ古ヨリ有ル笠ニ非ス実用ノ笠ニ非ス

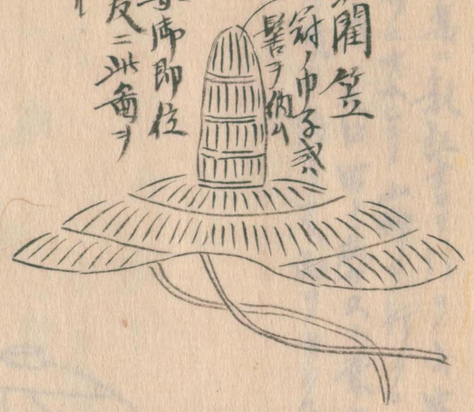
幕府ノ帷墓笠ハ黒天鵞絨ノ帷ニ紫羅紗ノ大名菊ハ黒ビロウド帷ナレド組或ハ紫紅梨子地金帷紋散ノ時繪柳シ錯紳家モ用ユ故ニ下ニ記ス

笠袋



幕府以下大名ヨリ陪臣ニ至リ実用ノ笠ヲ天鵞絨裏ニ例ノ如ク曲リ金ノ如キ物ニ鉤テ僕肩ニ又ハ徒士等ハ浅黄或ハ紺木綿ニテ乗物ニ駕ス供ノ人ノ為ニ

綾蘭笠



文字帽即位調度ニ此笥ヲ用ル

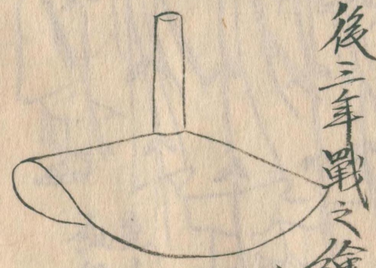
綾蘭笠ハ蘭ヲ以テ製ス今世ノ編笠ノ類ニテ編笠ハ深クアヤ井中井ハ浅キナリ一名日照笠ト云又徒笠共云フ笥ノ上ニモ中ニモ蘭ノ如クスル故ニ笥ト名ヲ納ムルナリ

同田楽法師ノ所用

風袋黒紫黄草シ此

是ハ麥ワラヲ以テ製ス今世ノ編笠ノ尺ニ歌合ノ繪ニハ繋絹所ニ無キ法師ノ所用故ニ

川袋ヲ負ヒ舞ノ時ヒラメキテ川流ナル二備フ



後三年戰ノ繪巻ニ有リ烏帽子ノ上ニ

裡書紙ヲハル

虫之垂絹之古圖

伊勢貞丈家類抄ニ

[illegible]山ニ[illegible]也

蚕籠ニ繰ル方佳又紡伎又

林逸節用集ニ繰ノ帳

蓋偏ハ糸ナラハシ
唐ノ一種ニテ別シ
俗ハナゾキ ウチアケト訓スレハ ムシロト訓セリ

旅行ノ体シ
後者ノ男ト見ユ

骨董集ニ教誡書ヲ引テ古虫ノタグヒヲスト云ルハ帷子ノ箱ヲ望ニ縫有タルヲ
誤リ乎ニオホヒテノ山師ヲ行クニ怪ナドヲサケン料ニセン物シ其故ニ虫ノタグヒ
トハ云ルベシ云々又曰虫ノ垂衣又ハ原虫ヲサケン料ナレドモ
サケ寒気ヲ防キ又面ヲカクス料ニモセシナルベシ

骨董集ニ男又尼ナドノ著タルハ垂タル絹ノ都テ短カシ住吉踊ノ体ニハ此
遠カラシ

守貞謾稿ニ今ハ古絵ノ住吉踊ハ菅笠ノ周リニ
黒漆ノ木綿一幅ヲ横ニ縫廻セリ 京ドトノ住吉踊リハ
名ノミニテ形皮ヒ
所作唯今俗ニ
走ルノミ

先ノ二人ハ婦女
組紐ナキモ古画ニ有リ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

炭焼

筏士
右ノ炭焼ト同製ノ笠シ

葱賣シ 枕賣ハ四頃ニテ是ト同形ノ笠ヲ着タリ

煎ル物賣

右四番七十一番職人尽歌合ニ所載シ乃チ土佐光信ノ繪シ光信ハ文明應頃ノ壮年ノ人ニトヤ云ヘ此歌合ハ文安室德頃ノ作シ

辻子君ノ番ニ辻子君ニ對セル男ナシ

饅頭賣ハ草履造リニ似タル笠ヲ被ヒテ此笠ヲ着タリ

草履賣ノ三笠笠ト見レ共其他ハ何笠共ニ難シ 繹笠欤

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

是モ職人尽歌合ニ所載、光信画し

草履造り

此笠帝已塗笠ト見エ
猛賣モ此笠ヲ着タリ

詞書

ごやりりく 杖金剛メセ

今俗モ草履ヲ誂テごやうりト
云モ古キコトし

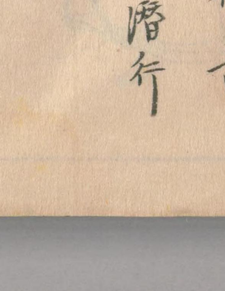
疏菓ノ箒賣

詞書ニ
コウリ
ハヽキ〳〵
ヨキハヽキガ候

草履賣ノ背ヲ見テ僧形
ト思ヘバ箒賣ニテ有
髪ナルヿ明カし表着ハ
道服ニテ今ノ羽折ノ象
歟

今世京坂ニテコ
ウウ俗ノ訛ニハ
イオンニヤオドヽ
古キ詞し江ノトニ
テハケギトヽハ
後ノ詞歟

市女笠番



市女笠上古ヨリ有ク其始メヲ知ラス婦女古衣被
ノ上ニ市女笠ヲ着テ面ヲ隠セシし左ノ上ニ祢ノ古
番ノ如キし
治承四年高倉ノ宮ノ女装ニテ三井寺ヨリ潜行
ニ玉フ時市女笠ヲ着玉フトカヽリ

七十一番職人尽歌合 文安宝徳頃し
所載 立君ノ画 今ヽ辻君ノ扮し
足利幕府ノ時ノ風俗し
スアヽ女二人日書ニ所載
此立君ト相似テ二人ニ此
日形ノ笠ヲ被衣ノ上ニ着
タリ是モ市女笠ナリ

履タルハ杖金剛し

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

享禄二年古画　秋夜間話ニ所載トテ胃蓳集ニ出セリ上ノ詞書モ同話ノマヽナリ

一向ノ下女ノテイナルヘシ袋ヲモタスルハ古風ノコト

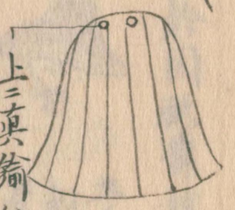
ソハヅカヘスル女トミヘタリ下女ハカミヲサゲズソハツカヘテイハカミヲサクルトイヘトモカツラハカケタリ

主人ノテイ今云カハキテイノモノヲキタルカウヘキタルハ大ウチキノテイトミヘタリ市女笠ハカミノソコヲサルタメカ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

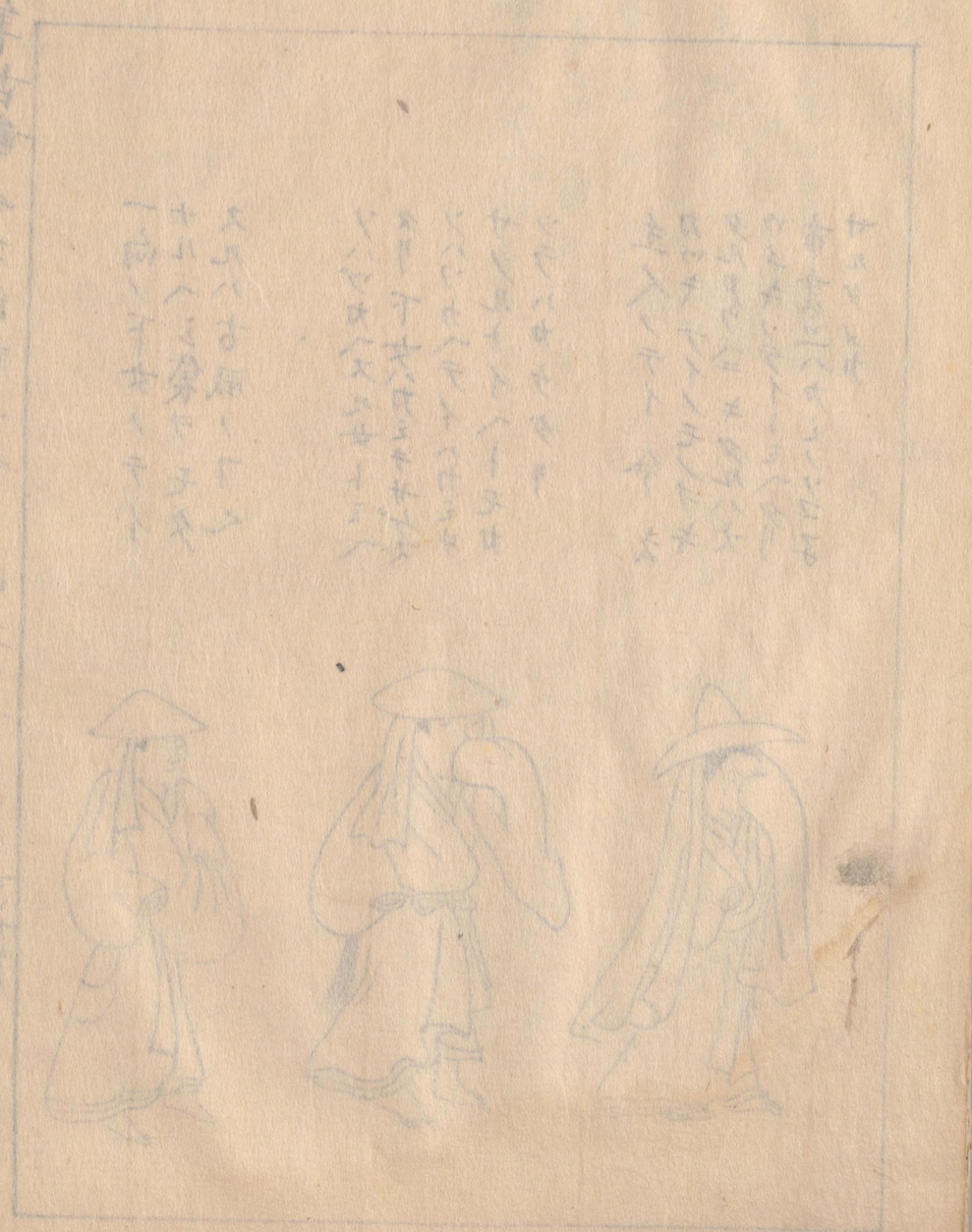
ガラス使用

我衣所載
僧ノ笠



上ニ真鍮鉄ナ打ツ

我衣ハ慶長以前ヨリ行ハル経本ニ用ル薄板ヲ以テ造ル
上ハ帛ヲ張ニテ漏ニ塗タリ上方ヨリ下ル僧ノ笠ニ
但シ道心者ハ用ヒス
許サズ



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

慶長中於国歌舞妓古画ニ所載

編笠

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

寛永正保頃ノ古画ヲトテ冨月筆集ニ載タリ

寛永中

北望一種ノ古制ニ

北望一下ニカムレル物朱彩ニ

寛永十二年印本七人比丘尼ニ所載

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

塗笠　我衣許載爾日書之経木ノ塗笠寛永頃若キ女用ヒ万治以来老女ノミ用ユ小児笠ハ小形ニテ内ニ菊牡丹梅水仙桔梗牡若ナドノ彩色繪ヲ書タリ子供カサハ紅或ハ浅黄紅ヲ以テ上ニテ結ブ寛永ノ頃若キ女ノカムリシ経木トハ薄ク紙ノ如キ削リ板ヲ夫ヲ心トシテノ紙ヲ張リ黒漆ニシタルヲ此爾左ノ寛文ノ比ニ合リ

我衣日笠與ハ正保中男伊達流行セシ時笹竹ノ編笠ニ細ノワラニテ造リ縁ヲ巻キテ緬ニテ万治以来竹皮ニテ製シタリ

我衣ニ明暦頃ヨリ菅笠出タリ若キ女用ユ紅ハ紅或ハ浅木ヲ表面塗内黒漆ニシタルハ老女カムリシ元禄頃ヨリ華若劇女郎事師匠ノ浅黄調ベ家ノ物ニテ笠紐ニ用ヒタルヲ享保ニ調ベハ鼓ノ緒シ

又或物本ニ万治比ヨリ江戸女被衣並ニ歩行ノ時雪被面ノ上ニ玉ブチトキ菅笠ヲカブリ寛文ノ比松坂トテアリシヲ延宝ニ至リ熊谷トテアリ笠ヲ天和貞享ヨリアラカサ廃シ菅笠ノ時幕有リ庇ヲ真本トテ茨ノミ用ユ又昔ハ冬暑ト雨ノ時ハ菅笠ヲ用ユ晴天ニ笠ヲ用ユル事ハ無シ菅笠ヨリ上下輩共ニ用ユ近年婦人ノ供奉ノ外ニ見ズ唯雨中ノミ笠ヲ用ユルハ武家

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

萬治二年印本可笑記ニ所載

我衣日笠組ハさゝ干治以来竹皮ニテ制ス之ヲ名ク

当時塗笠編笠共ニ深シ石畳ノ文様モ古キ物シ

寛文中 寛文二年印本江戸名所記所載

前ニ云ル松坂ト云編笠形モアリ

詳ニ後考ヲ待ツ

我衣日古来ハ男女尼常ニ編笠ヲ用ヒタリ

寛文迄此餘風アリ延宝天和ノ平笠ヲ用ヒタリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

三番ハ我衣ニ所載　蓋我衣ニ載ル諸番傳寫ノ誤謬甚多シ　原本ニ據サレハ其正ヲ知リ難シ　今余カ得ル寫本ニ因テ逐寫スルニ其番ノ見非ヲ糺ゼス下ニ往々日書ノ番ヲ寫ス皆倣フ

日書云古来此編笠ヲ用ル女ハ紅絛或ハ浅木ノ組ヲ引通シカムル一文字トカ延宝ノ頃迄茜被笠シ

日書云小編笠醜醤売ル児売ル笠シ　鎗持奴ハカムルヲモアリ

守貞云鎗持ハ小形ニテ鎗柄ニ紡ケナラヌ故ナルヘシ　ホラツキ児車ハ二児乗物シ今ハ彼従ハカムルヲ編ナル乗物売ル菅ハ下ニ畜ス読売ト向キ折形アニカサヲ用フ

日書云男ハ菊按ノ折形深編笠ヲ用フ男伊達風ナリ　常人ハ折形ナル其傍ニ用フ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

我朝日笠錯ハまこ延宝頃モロコシ売ニテ梅ニ
似前ハ笠梅ワラニテ自分ニ製シ天和頃上京
ニテ南蛮キビトカブリモロコシトカブリモロコシ
日書ニ記載
笠梅

古来笠当蕎ニテ造リ紙ニテ
包ム菅笠ニ用ユ編笠ハ専ラ
ウさ

上方ヨリ出ルモロコシ
売ニテ造ルし

延寶中

塗笠

菱川師宣絵本ニ所載

編笠

塗笠

古屋川ノ繪

編笠塗笠共ニ下ニ奇特頭巾ヲ
カムレリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

我衣日笠組ミ延宝迄ハ武ハ珠数玉ニテ通リ細竹ノ笠骨ニテ作リ又ハ覆世
ヨリ思々シ處ノ平作ハ上品ニ元禄頃ヨリ次第ニ浅ク男女共用ヒ候
男女共用ヒ候

天和中

塗笠

天和四年印本 菱川師宣画

編笠

同右

黒ク熊谷笠ニシテ延宝天和貞享ノ頃流行ノ笠ニシテ少女ノミ用ヒ中年以上ノ女ハ用ヒス又ハ
江戸ニテハ少女モ不用ヒ京坂ハ少女ノ用ヒル事トス故ニ小女郎手ト云
又裏ノ如ク背高ク前ヲ下ケテ着ル面ヲノカリ
ナニカサトキシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

我衣所載編笠

天和頃ヨリ熊谷笠トテ武家人用ノ白紐引通シ役者ハ古来一文字ヲ用ノ此頃ヨリ熊谷ヲ用ノ享保中ヨリ尤キ侭ニ三ノ用ノ醫者ト出士而已シ町人ハ用ヒズ一文字ハ紐引通サズ中ダルル岐阜笠ニ帷子賣皆用ヒ熊谷ニハ十ク編笠ニ此畨右ノ菱川ノ画ト違異シ右畨ニテ此畨傳多誤ナラン

日書ニ笠紐天和頃上方ヨリモロコシガラニ重緒ヲ出ス又曰古来ハ男女共ニ帯ニ編笠ヲカムルヲ此以後手笠ヲ用ヒタリトゝ

日書ニ菅笠畨又曰天和ノ頃ヨリ大名衆共ノ用ニ加賀ノ菅笠ヲ用ノ(ス)ニ三ノ止タリ室永末年ヨリ様ヲ針銅ニテ止ル上總ヨリモ出ス天和頃ハ内ヲ半分ニ折テ三ノ葺リ正徳ヨリハ内一ト回ニ菅ニテ葺リ紺糸ヲ以テ縫ヒ健タルハ高藩ニシテ享貞ヨリ当時菅笠形如此ニ恐クハ傳写ノ非ナラン

天皇玉璽

紙捻ノ紙紐ヲ有テトゝ

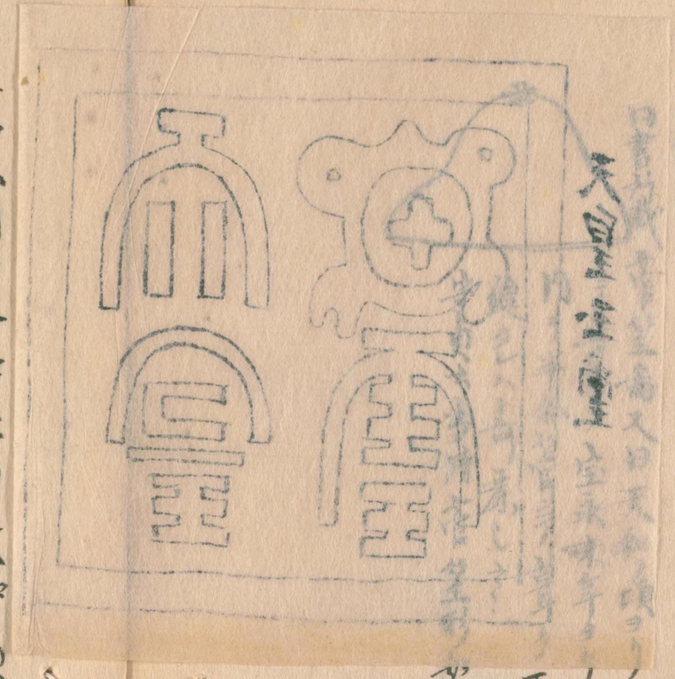
此ハ菊笠ノ上ニ中帖ノ頃ハ都テ此笠ヲ著ラハ氣違ナドさべし其時ニ

元禄ノ頃塗笠都鄙ノ白無垢上ニハ紫絞リノ青海波ノ紙折ノ帯ハ紫ノ紐ニ龍巻結ビ目ノ後ロニ結目ノ大島田忍ニ元結ノ上ニ中帖ニノ星鏑ヲ金ノ折菊伽羅ノ角等ニ青革ニ二ツ寺ノ袖下ヲトハ鏑ヲ落ニカケノ大紋ノ裾ニ三

天和頃ヨリ熊谷笠トテ武家人用ノ白紐引通シ役者ハ古来一文字ヲ用ノ此頃ヨリ熊谷ヲ用ノ享保中ヨリ尤キ修三ノ用ノ醫者ト雖士而已シ町人ハ用ヒズ一文字ハ紐引通サズ中ヲ結ビ垂ル岐阜笠

日書ニ笠紐天和頃上方ヨリモロコシガラ二重緒ヲ出ス又曰吉兼ハ男女共帝ニ編笠ヲカムル事ハ此以後手笠ヲ用ヒタリトゾ

此番右ノ菱川ノ画トハ甚異シ右画是ニテ此番傳ノ誤ナラン



天皇空空

ノ大名衆女ノ用ニ加賀ノ笠皆笠ヲ用ノ前ハ竹ノ様ヲ針銅ニテ止ル上徳ヨリモ出ス天和頃ハ正徳ヨリハ内一回ニ皆ニテ葺リ紺糸ヲ以テ

此段恐クハ傳ノ非ナラン

喜保利本 世事ノ談曰天和ノ頃ハ笹ニ流布江戸ニテ寛文延宝ノ頃ハ菅ノ都ニテ女編笠ヲ著タリ古キ江戸繪ニ同ヲ見ベタリ当時ノ編笠著ヲハ氣遣ナドスベシ其時ニソレ此時ニシテ面白シトゾ

天和ノ印本一代男ヲ下ニ水鹿ノ白魯無垢上ニハ紫絞リノ青海波ノ衣折ハ銀ノ小ノ字切技セ五所ノ先リ帯ハ紫ノ殺ニ左巻結ビ目ノ後ロニ結目ノ陽ニ鉢ノ鎮ヲ入レ髪ハ水引カケニノ星鬘ニテ髪ハ水引カケニノ大島田忍ニ元結ノ上ニ中帖ニ本地ノ蕾籠ニ白キ紙ヲ上ニ結ハスシテ元禄印本 俗従兎ヲ頭ヲ近路ニカケ手元結先ハ一文字ニテ庵形ノ差櫛ニ貝ノ折菊水鹿ノ上ニハ紅鹿ノ両ノ袖ニ小鳥冬織縫ニチラシテ白繻子ノ裲襠ヲカケ吉原仕出シノ後ロイスビクケメノスソニヒダヲトリケテ白繻子ニ童陽具紅裡ノ小模様ノ菊ノ金入ニテ裡ヲ折ル水口ハ兵衛差ノ蕾笠ニ菊地ノ金入ニテ裡ヲ折ル紙捻ノ紙紐ヲ用テシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

菱川師宣画
和国百女詩哉

編笠

編笠

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

日書ニ所載

笠尽笠

武家若衆下見ニ

桔梗笠

桔梗笠

元禄ニ三年ノ少年用ユル者アリシテ
曽畫集ニ証テ集メリ
笠ハ青黄赤一間ナキニ交ヘ彩セリ
絹張ノ類歟

和国百女ニ所載

菱川師宣繪

編笠

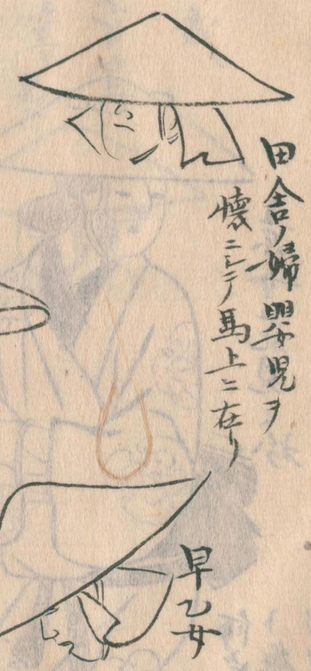
京女花見ノ形

京女鬢ヲ結ノ形

師宣ノ画ナレハ京師ノフリ画リト雖モ必ス京師ノ形トハ定メカタク恐クハ江戸ノ風俗ナラン

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用



大笹民二和国百女二折戒

我衣二所着

比丘尼

此比丘尼ノ笠ヲ我衣ニモアジロ笠ヲモ

我衣曰古来所用ノ桐代笠竹ニテ製ス刷キ漆ニテ止メタルモアリ多クハ白シ僧ノ冠リ物シ天和以来上方ヨリ下ル物アリ

早乙女

是モ田舎婦女

熊野比丘尼

我衣所載

笈官笠

殿中形
ト号ノ

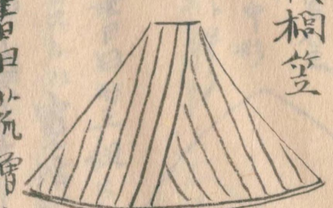
日書曰笠紐ヲ貞享ヨリ元結一把ノ代ニテ片紐ヲ製ヒタリ左右二把ニテ
紐ニスルハ寛活男ナラデハ用ヒズ云々
又曰貞享ヨリ二度笠ノ造リ方全ク今世ニ度笠ノ条ニ詳ス又畨ヲ
載タレド枝ニ改ニ暑ス

日書曰男笠ノ官笠ヲ本トス云氏張笠箱笠モ古ル
殿中ト云官笠ヲ用ノ
又上畨ノ下ニ云上総ヨリ出ル殿中ト号ル伊勢ヨリモ出ス貞享ヨ
リ流行ニ女モ用ヒ元禄ヨリ武家ハ定メテ用ヒズ
当テロヨカリス正徳ヨリ除ク武家ハ定メテ用ヒズ
守貞云前畨ニ殿中狭

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

桜桐笠



我衣日ニ云ヒ中ノ薩州ヨリ出ル元禄頃、調法ト名ル笠ニ
多故ニ人称シ三年モ五年モ用ヒテ損セズ桜桐ノ葉ヲ晒
シニ四枚合テ造ル実ハ桜桐ノ葉ヲ晒
乃チ桜桐ノ葉シトカヒ云ヒ
日書曰孤僧ノ編笠元禄迄ハ大形ニテ減ニ
日書曰元禄迄照ノ緒ハ半幅ノ編テモ花色ニテモ有合ノキレヲ平仵ニテ
用ノ元禄ヨリ五ツ捻笠緒流行スル是ハ菅笠茅ノ緒ナルベシ
又曰竹ニ雪モ古来ハ細ヲ用ノ元禄ヨリ有合ノ麻切裕セ事永ヨリ白晒ニ
又曰笠紐ニ元禄頃ヨリ空永頃笠編ヲ
復ニ童偏ニ造リ名リ
下面ヲ出セリ

笠編緒類緒

元禄中

編笠

天和ノ編笠
ヨリ代後ニ

元禄末宝永頃、雲ル宮川長春ノ繪ニ此画アリ
正徳頃ハ廃セル歟物ニ見ヘズ

此編笠ヲハ女ノ反リトセ
又用ル

元禄中ノ編笠名目 都富士、一文字、玉編、腰不二成
伏編笠 焼印編笠 大編笠 文化印笠種彦作昔木偶ト云物ノ事ノ目次
ノ名ニ用ヒテ五世ノ物ト雖モ専ラ元禄ヒノ古名ヲ用ヒタリ其附言ニ中昔ノ
目セキカサノ名ヲモテ目次トナスハ彼曲ヲニ編笠ヲ挿ト歌ノニ因アレバナリ
腰不ニ都不ニナニドヽハ第七山ノ形ヲ字ニテ
鑑ニ富士ヤロニシトヽヽ大編笠ヲヌベバ紫ノ千
手ノカフリニモノナルベシ小女郎手モ同書
ナリ[トアレバ美女]トアレバ美女
ニ用フルハ是ナラン 烙印編笠ハ泥町ノ
茶屋ナニドニテ花街ニ都ノ客ニ一夜ズヽヤ
ノ事 都ニモアリニヤ西鶴ガ胸算用ニ乗掛ノ細道トヽ野辺ニ編笠ヤセテ
乗山ヲヲ拵ヘ古キ竹杖ヲツカセテ置ヒニ者鳥モ不断焼印ノ大編笠ヲ見

松ノ葉元禄十六年ノ板本ニ胸算用日五年板

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

以テ見セ供ナドノ大尽ト思ヘルニ茶屋ノ家号ナドヲ焙印シテ
ヤニ名物ナルベシ野夫編笠ハ元禄印本今様畳我ニテ形未考ノ玉ブゲハ
武人ニ白革ニテ縁ヲトリタル古キ編笠ヲ蔵スル者アリ是レトモ是ホヲ初ノ
都ホニ暁ホニ一文字ノ類種々ノ書ニ見ヘタリ故ニ出書ヲ誌サズ又アニカヤハ
近松力院本ニ十露盤捨テ町人ハ悪ノ相場ニ手ヲシメテノ明日ノオ有尾ノ
日ヨリ見レ武士モ道具ヲ伏編笠トアリ是モ目セキ笠ト同ニク月フセキ笠ノ略称
ニヽ西鶴ハ天和元禄比ノ人ニ泥町ノ茶屋今ノ田町ニ来雀俗ニ島原シ
焙印編笠近世芝居茶屋ニテ皆ニカヽ福草履ニハ谷焼印アリ編笠ニモ是トハ
ニヽ他ト限セガル標月シ

元禄中幸若新九郎ノ妻師匠ノ浅黄ニテベヲ菊笠ノ緒ニ用ノ

我衣曰宝永ノ頃ヨリハ武士町人惣テ始テ杉形ノ笠ヲ用ヲ大ニ流
行ス正徳頃上笠出リ紺糸縫針銅ヌメ次ハ麻糸ヌヒシ
日書曰宝永以来皆笠ノ様迫葺タリ歩浅黄ノ横糸笠当皆組成
黄加賀絹紅絹ノ笠当モ尋常シ正徳ヨリヽ浮貞ヽ様迫葺ハ後来
背半葺ノ当時以来内金リニ葺シ
又曰笠組ヽ宝永頃ヨリ上方製ヽ葺ノ細組下ル是ヲ用ル人多シ中
暑宝来迫大名ハ格別平人ノ白晒笠備有ルハ婚礼或ハ山王祭ノ外無ヽ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

我衣日笠ハ正徳ヨリ上品ニ手黒絹ヲ製シタリ
サラニ古クハ中輩人ハ白晒木綿紐ノ黒ク
又日正徳ヨリ笠脚ノ背ヨリ末ヲ若干男ノ
大ブサ髪ノ曲目ヒシゲ又多シ古トアリテ下
童ヲ表ケリ

15

守貞云今世モ笠脚ヲ
用ルニハ必ズ前ノ如クヒレ
テ全脚ヲ用ヒズ

編笠
蕎麦ノ振ヒ

享保 十八年 利李 自笑ノ作 高砂大島墓ト古
草紙ニ左画ヲ出セリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

貞

檜笠

我衣日 檜笠ヲ用フ 和州大峯入ノ修驗者古来ヨリ晴雨用々 一宮保中ヨリ如此檜笠ヲ造リ両ノ眦ヲ又當ニ綱代ノ上ヲ二重ニカケセタリ新々ヲ皮ニノヘメ結ビ斬リ目リモ結ビタリ大笠シ等貞ヲ皮ハ櫻木皮狹今世黄ノ如キ檜笠アリテノ櫻木皮ヨリ新々結セ止今モ修驗者旅行等ニハ用々天保中京坂市民モ用々火事ノ時中ムル

日書日 百一宮張陣笠 一宮保中ヨリ町人四季ニ日書ニ一宮保頃ヨリ笠縁ノ下ヘ絳紐一條ヲ十文字ニ廻ヘカケ後ロヘ下リタルヲ又前ヘ回シ胸ニテ結ブ男女ニ用ノ黒縞綿ヲモ用ノヲ多貞日大名一文字笠ノ緒此制ニシ他物ヲ用ヒズ其他士民ニハ往々用ヒズヲ一宮保ヨリ笠ニテ緒幅廣ク赤ヘ胸緒モ總ヲ用ノ亦ニハ世上ニ者テ上ロ巳人ノ制ニ始テ造ルシ

又日 一宮保ヨリ笠ニテ緒幅廣ク赤ヘ胸緒モ總ヲ用ヒズヲ一宮保頃ヨリ笠縁ノ下ヘ絳紐一條ヲ十文字ニ廻ヘカケ後ロヘ下リタルヲ又前ヘ回シ胸ニテ結ブ男女ニ用ノ黒縞綿ヲモ用ノヲ多貞日大名一文字笠ノ緒此制ニシ他物ヲ用ヒズ其他士民ニハ往々用ヒズヲ女太夫モ此制ニ浅木木綿シ

我衣上ニ菅笠ヲ畨ノ其下ニ宝永ニ兼菅笠ノフチ迄葦キタリシヲ中ニ一宮保ヨリ笠當ノ大形ニナル 或ハ表白裏紅ノ笠當ヲ造ル 元文ヨリ駿河町ニ市ニシ是甲女所用ヲ記サズト雖モ必ズ女用ナルベシ

又日 宝永迄大名ハ格別平人ノ白晒笠ヲ用ヒズ一宮保ニテニノ黒縞綿ノ二ナル

又日 笠當モ一宮保ニテ黒縞綿ノ二ナル

条ハ男子ノ所用ノ笠當笠紐ナルベシ

又日 菰僧笠 元禄迄ハ大形ニテ浅ニ一宮保ヨリ深ク小形ニナル 虚無僧ノ外ニ用ヒル人多シ 守貞ニ此ニ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

我衣紗載

小児笠

日書古享保ヨリ上方製花笠下ル毋録書紫等彩色ス小
児笠ニ菊笠竜笠多年中絶唯畚ノ如キ小田原笠ノミ
昔ヨリ今ニ至リ江ノ水口駅ニテ諸菊笠竜胆代ト共ニ売ル
今ニ嘉永ニ至リ江戸ニテ白ズクヤサヨ用ノ是モ水口ヨリ来ル
初将軍江戸ニテ製スト雖
又曰此笠大人ノ笠ト均シク畚セリ俗ノ誤ナラン今世ア物是小形ノ

元文中

元文六年印本西川祐信絵ス

祐信ハ京師人ニシテ

武士旅中之体ニ
菅笠ヲ着セルベシ

農夫簔笠ニシテ

鳥羽ニ
菅笠ニテ裡ヲ周リノミ葺
餘セリ
女ノ菅笠モ周リノミ葺ズ

半合羽ノ
上ニ表帯ヲ
ヨタリ今世
所無ノコトシ

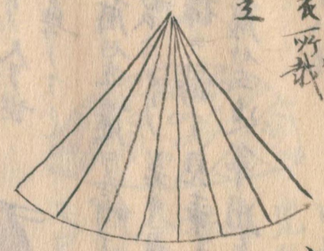
我衣日藤笠藤ヲ編テ造ル元文頃ヨリ藤細工スル人花器或ハ釜敷手提掛ヲ造リ
此笠モ製リタリ若キ武士或ハ医者又ハ俳坊主多ク用ヒ上方ヨリモ下ル細工ニ良シ
種々模様ヲ編テ見事シテ字貞古藤ハ
孝経ノ藤笠近年用ヒテ後ニ記ス
皇国ノ藤曼殊又ハ兼柏ノタリ抜

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

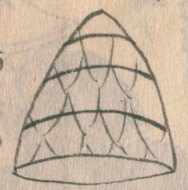
二面ニ
我表一冊載

経木笠



我朝ニ元文ヨリ経木笠ヲ用ユ漆張又ハ渋ノ両面ニシテ青塗ニ黒ク青漆或ハ黄又ハ溜塗等シ上方ヨリ来ル日時上方出来ノ網代杉形白多ク或ハ赤ク陰ニシテ紋アリ平人用ヒラ

八千ノ貝
屑笠



日書曰八千ノ竹笠バイトリトス江戸ニテ造ル下リハナシ元文ヨリ流行ス元来鈎人ノ折用ヒ竿ノフチヘサワラヌ為ニ如此深ク小キヲ造ル下品ナリ

日書曰笠縫籠緒八細キ竹管ノ二重緒三ノ上方ヨリ下ス下品ニテ用ヒズ又曰元文頃笠縫ヲ高クシテ髪ノ刷毛先ヲサワラスヤウニスル人アリ見苦キモノナリ下面ヲ平ニテ下面ヲ平ニテ

又曰日時笠縫ヲ用ヒズ中ヲ薦来ニテ作リ緒ヲ巻キ左右ニツキシ用フル流布ス是モ髪ノ刷毛先ヲ厭フ故ナリ下面ヲ平ニテ下面ヲ載ス

此形今世ニ用ユ木綿苧ニテ縫ヒテ内ニ蕎麦殻苧ヲ納メ号テ笠枕トス此遺製ナリ

元文六年印本京師祐信画本ニ所載

当時専ラ處女ノ此菅笠ヲカブレリ

上ト日笠ニ当時宮笠男女折用形異ナリト雖トモニ央ノニ聳テ周ノ裡ヲ高セリ

我衣出戦 杉形経本笠ノ吹ニ出ヌセリ
男笠し

文日 鋼代張ト云ノ様ヲ又ニタリ杉形ヨリ二三年後ニ出ス時小身ノ武
馬上ニ皆用ヒ 時鋼ノ衆時小姓衆モ用ヒヌ 赤スリシ延喜ヨリ陪臣モ
駕ニ乗ルヿ能サル人シ 今ハ騎馬ノ人 昔ハ大名ノ医 大器ヲ石ニ載ノ簇本ノ内ニ
ハ長柄傘ヲ用ヒ 或ハ星陳ノ張笠ヲ用ヒリしニ 両天

宝暦中 宝暦六年印本所載し

日
頂キニ
聊圭角アリ

蓋左ノ如ク
此ノ三ハ
圭角ナキ形

笈女裏ノ
簑若詰
茅ノ体ト見ヘ
左手ニ手桶ヲ
右手ニ供水筒
ヲヲ携ヘタリ
又草鞋ヲハク

上臈女洛外
迎郊茅ヲ
歩行体シ
裡有雪踏ヲ
ハケリ

此二女ガ笠ノ紐ハ宝保中長キ一條ノ
紐ヲ以テノキトカル則是シ
今世婦女旅行ニ非ハ笠ヲ用ヒズ蓋
江戸女太夫トカヘ乞丐ノ笠モコレヲ製
浅黄毛綿ヲ用ヒ又男子ニ稀ニ此紐ヲ
用ヒ武士一文字笠茅専ラ此製シ
其他ヲ此制稀シ

少女 左右ノ手ニ各此
花笠ヲ持ヲ曜ル体シ
實用ノ笠ニ非ス
今世モ劇場及ビ少女
茅ニ京坂ニテ乗ニ江戸ニテ
踊リトカヲ行ノ者用
ユル笠ノ骨ニ銀箔ヲ
ヌキ洗紅ノ造花ヲ付ル

文化十一年写本 慶塚談日 女笠トテ宝暦ニ
飛脚ノ二度様ナルヲ用ヒタリ 紐ハ後ノ方ヲ
結リし 是モ浴衣ト日様ニ 今ハ被ル者ナシ
傘ニテアリ 又休様ヲハクル 婆々ナドハ藤ニテ 編ニ笠ヲ用ヒ此笠ハ高價

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

ニテ早駕ノ婦ハ用ヒガタシ　さゝ山浴衣トハ浴衣ヲ兩隆ニ又用セルシ浴衣ヲ着セザル三ハ非ズ又小藤笠ハ菅笠ノ小ナルベシ又ハ近年用ヒル来船ノ小藤製ニ於

塵塚ハ古座敷比迄ハ女笠トテ大ク飛鄕ノ三度揃ヒタル形異シ古昔ヨリ今ノ三度笠ニ至ル迄ノ間ニ変化アリ　今ト古ハ文化ヲ指ス右ノ女ノ笠ハ明和安永ノ頃ノ婦女ノ笠ナル者ニテ寛延三年ノ官令ニ菅笠ノ代リニ青紙張小傘ヲ禁ス

安永四年刊本狂哥春信画

菅笠

旅客

一ハ雷盒ニ似タリ
一ハ杉形ノ

編笠

浪士

菅笠

餅サシ鳥刺シ
当時ノ菅笠裡金ノ笠リノ

安永二年ノ刊本風俗通ニ
笠ハ菅ノ蕭鉢形　水口細工ノ藤蔓笠駿河細工ノ竹笠是ニ二色アリ上ハ萌黄ノ漆竹中ハ白晒竹下ハ紫竹右五色ノ内ニテ好ニ随テ用ユベシ笠当笠袒白晒又黒紹モヨシ然ト黒キ紹ニテハヨゴレテ厭ノ心見エテアシ　是ヲ前下リニ冠リ後ノ袒打チヲガヒテ

藤蔓笠ハ菊籠笠ト同物シ竹カサネ萌黄漆竹等サシ袒皆打違ヒ後ノ一文ハ笠ノ冠タル面ニ同シ

田国行行者
今世ノ如ク雨リニ絣木綿ヲ用ヒザルニ小笹故製ハ詳ナラザレド試トスベキニ

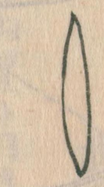
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

古キ伊勢道中ノ唄ニ「大坂ハヤレテハヤ玉造リ笠ヲ買フナラ深江ガ名所サヽ河州深江村ニテ専ラ此笠ヲ製ス今モ売リ蓋加賀笥ノ義ナリ又ハ笈ト云フ（日本名所ノ一トスル）

笠下今世所用之笠し

古ハ吉原通ノ簾部ヲ用ヒ今ハ面ヲ顕ニテ通ニ又面ヲ隠ノ者ハ手拭ノ頬冠或ハ乃巾ヲ用ヒ蓋白馬モ売セヌ事ヲ四手掛笠麓ノ土ト称シテノ土手下ノ茶屋ニハ行燈ニ編笠茶屋ト書ト記スモ亦今ニ土手下ノ茶屋ニハ行燈ニ編笠茶屋ト書ト記スモ亦

編笠



笠如此被手し

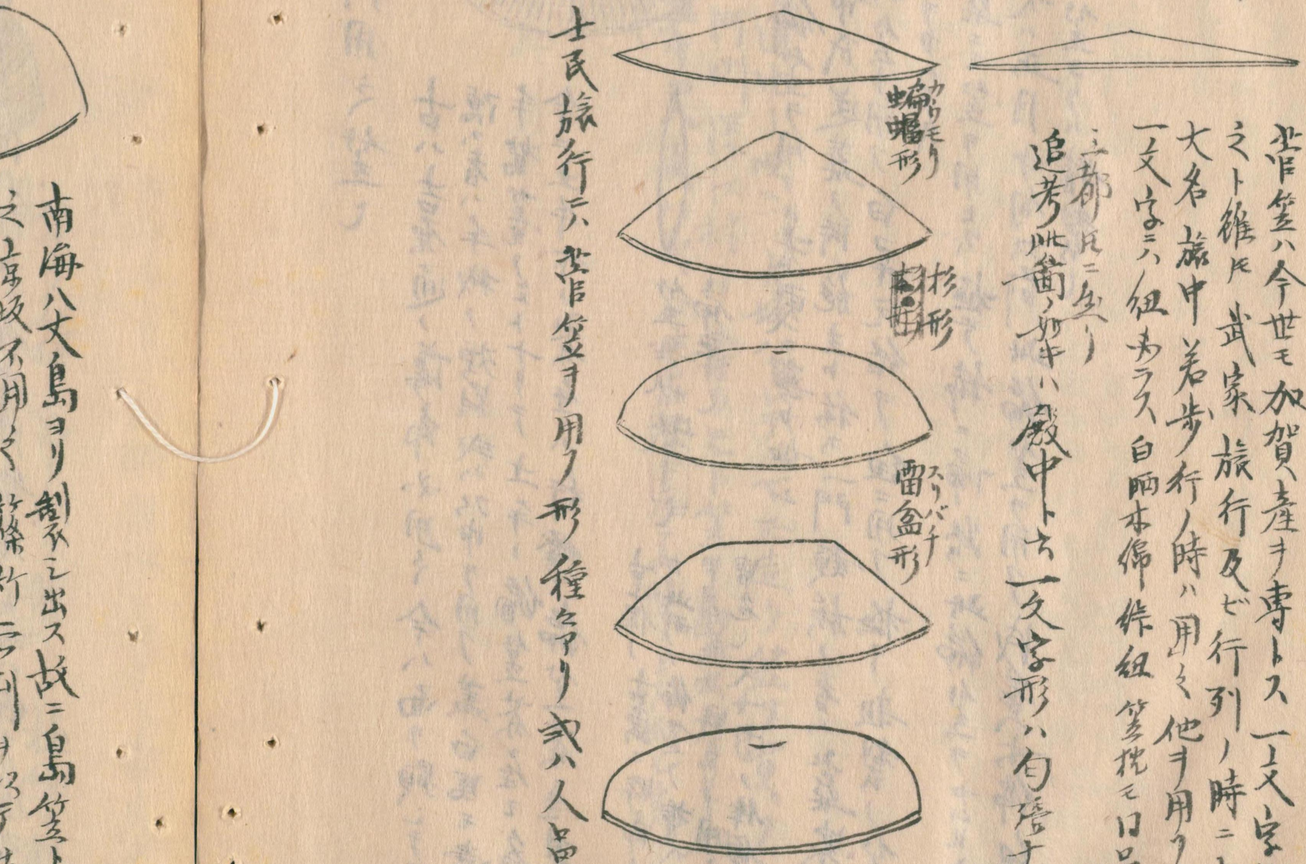
喜保ノ吉原ニ野郎ノ供セル少年ガ此形ノ編笠ヲ携ヘタルヲ見タリ是ヒ用ニ非ズ野郎ノ用ヒ野郎ハ今モ男色シ又女形ノ俳優シ

今世京坂編笠ヲ用フル者更ニ無ク如江戸ニテハ市民送葬ノ時施主ト称スル一門ノ輩ノ内此編笠ヲ用ヒ白コキ元結ヲ組ニ用ヒ袴ニテ笠ヲカブラズ京坂ハ送葬ニモ笠ヲ用ヒズ極テ稀ニ編笠ヲ用フル豪家ヨリ出ル葬ニ用ヒ粗製ノ笠ニ帷路ニハ多江戸如ク大ハ正月中旬以前此編笠ヲ用フル送葬ノ笠ヨリハ精製シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

一名殿中一文字笠



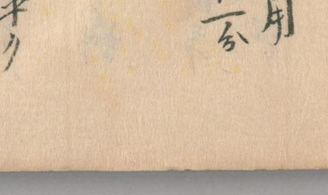
笠笠ハ今世モ加賀ヘ産ヲ専トス一文字笠士民共ニ用ユト雖モ武家旅行及ビ行列ノ時ニ士ハ専用ノ物トス大名旅中若歩行ノ時ハ用ヒ他ヲ用ヒ一文字ニハ紐ありテ人白洲本儒絛紐笠抔モ品シ

三都共ニ多シ

追考此笠ノ如キハ殿中ト云一文字形ハ勾配ナキ物ヘ

今世三都ニ士民旅行ニハ笠笠ヲ用ノ形種々アリ武人品ニ應ヲ用ヒ式ハ隨意用々

島笠



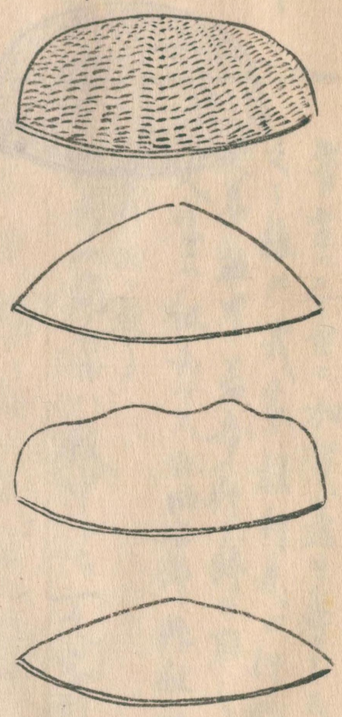
南海八丈島ヨリ製シ出ス故ニ島笠トス江戸ニテ用ユル事板不用ヒ竹ヒゴ形笛ノ詩ノ割竹ヲ縦横ニ編リ下面ノ如キ物ノ如シ

竹條竹二ツ割幅一分許ナルヲ又皮ノ方ヲモ割リ平ク故ニ幅一分許ノ両辺ニノミ皮ヲ残セリ

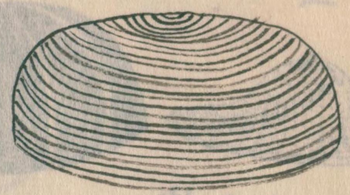
菅籠笠

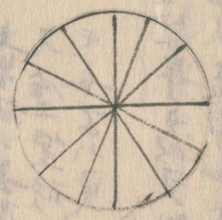
菅籠笠モ形島笠トほぼ物多シ又他ノ形ノモアリ皆白ニノ用ヒ今ハ嘉永ニ至テ初テ江戸男子用ヒ古ハ女用今ハ男用トナル京坂ハ不用ヒ江戸モ特ニ凡流ヲ好ノ男子用ヒ価銀二十目許リ上製ニ江州水口駅ヨリ製シテ精製ナルガ故ニ彼地ニモ多シ造ルニ工柿シ

藤笠
竹笠
亘二尺許



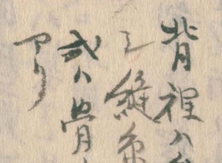
今世江戸ノ士民市中徘徊ニハ皆笠ヲ用フ人稀ニテトリカサ赤舶ノ藤笠竹笠銅代笠鳥笠等ヲ用フ又迎年葛籠笠ヲ用フ藤ハ赤舶シ割削ヲ以テ皮ヲ用ヒ或ハ骨ヲ去皮ヲ専用ヒ二ツ作ノ銅代笠等ヲ製ス竹笠ハ天保初ニ駿州ヨリ始テ造リ出シ江戸ニテ造ル竹笠出テ次ニ麦笠ヲ造リ出シ江上ノ用トス小民モ之ヲ用ヒ賤業庸夫奴僕下児等ハ不用京坂モ不用ヒ之ヲ雑ニ八チノ笠ト上製等ヲ用ヒシ銅代笠ハ京坂モ用ヒ藤ヲサリ竹笠編法ハ京坂ニ古ク箱江戸ニテ笠ヲス竹骨ノ名シ故ニ天保中柳樽ニ詞ヲ通人ハザルヲカゾヒテウレシガリ竹笠藤笠内ヲ漆漆骨ヲ張ヲ上京坂ニテハチノ笠ニ内銘ヲ書テ贈モアリ紙ヲ京ボルモアリ銅代ニ式ハ紙ヲ張ヲ用ヒ





八チノ笠ハ高ヲ二ツニ割ヲ製ヲ極細ニ削リタル竹ヲ以テ押ヲ又極細ノ前木ヲ以テ縫ヲ都ニ用ヲ

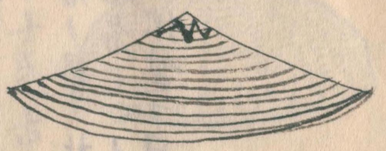
背程ノ竹ヲ割ヲ極細ニ削リ竹骨ヲ製シ竹撰ノ裡ヨリ出シ縫糸蜘蛛ノ如ノ題ル



竹骨ト撰ノ間ニ絹紙ヲ挟ミ之ヲ縫ヒ

往来武士上下輩ニ潜行ハ用ヲ昔ハ編笠ナルベシ近世ハ専ラ遮来赤舶ノ藤笠流布スト雖ニ大名等潜行ニハ又往来士民ニ用ヲ小民賤者ハ野業東ノ時ハ不用ヲ遮来高坂ハ藤笠ヲ用ヲ小民ニ用ヲ近年ノ二ツニ割ヲ極細ニ削リ竹骨ヲ製シ竹撰ノ裡ヨリ出シ縫糸蜘蛛ノ如ノ題ル竹骨ト撰ノ間ニ絹紙ヲ挟ミ之ヲ縫ヒ後ニ達ス

右ノ笠賤者ノ用ニ非スト雖ニ唯江戸ノ風俗損ヲ称ヲ非人ノ俗ニテ(ママ)ヲ(ママ)ヲ(ママ)ヲ



八千ノ於撰ハ前潜行前面ノ深キヲ著ス者ニ上下ノ時若シ文字ヲ書トス今世ハ若シ文字ヲ除ニテ此笠ヲ左面ノ蘭笠ヲ専用トス蓋シ年ノ士ニ特ニ多シ

蘭笠

塗笠

江戸ニテ士民庶ニ大小雨等ノ時傘ヲ用ヒ雖中間ハ多ニ簑或ハ桐油紙合羽ヲ著テ此笠ヲ笠ヲ用ヒ馬上ニテ著ス

又塗笠形ハ異ナレドモ女ニ不用ヒ

士民庶ハ婦女ノ用トス今世ハ江戸ニ従来未見ク若永四年ヨリ

燈心草ヲ以テ製シテ編ミ流布シ歩行ノ武士専ラ用ヒ蓋供ニハ不用ヒ

私ノ他行ニモ用ヒ大概帝ニ京坂ニ用ヒ

武人日従来南部ヨリ産製ク南部製ハ両中間ヲ時湿リヲ編目ヲ塞キ雨ヲ洩ザ今専用ヒル婦

晴天ニノミ用ヒ日六年ニヨリ日御異形ヲ製ニノ市民モ稀ニ用ヒ

菰籠笠

韮山笠 一名藪潜

豆州韮山代官江川太郎左衛門西洋炮術ニ長ケ門人多ク後輩作始用ヒ故ニ名ヲ下ニ坂ノ所無シ

菰籠笠

其形ノ種々アレドモ裡ヲ張ズ

昔ハ小児ニ用ヒズ又婦女ニ用ヒ今世婦女小児ニ用ヒズ又用ヒ

蓋此笠昔用ヒ其後廃セルガ寛永二年ヨリ専行ル

又用ヒ日五六年ヨリ

安政初ヨリ炮術調練ノ士専ラ用ヒ紙捻製ニテ形チ

編笠ノ如ク扁平ニテ小形シ黒漆又ハ錦ニ記号等

箔押ニ描クモアリ多クハ調練ノ場ノミ用ヒ往来ノ間ハ被ラズ人稀シ此笠ハ西洋炮ヲ扱フニ「スコドール」ゲー此ヲ時陣笠騎射笠ニハ

陣ト云故ニ是ヲ造リ安ンメルナリ

嘉永六年ヨリ右ノ蘭笠種々ノ形ニ造リ市民モ

稀ニ用ヒ

右ノ蘭笠ハ琉球表ニ造シ蘭ト同ク太キ物シ又

編笠ニ用ヒル八備後早島表ニ用ル細キ丸蘭

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

笠ノ裡ニ紙ヲ張ル物ノ先年ハ絵紙ヲ専ト
築候紙ヲ専ト

三度笠

大深尺寸

菅笠ノ一種ニ三度飛脚用ユ故ニ名トス深クスルコトハ
誤テ落馬スルヲ防ヲ要ス故
ニ笠ノ真ヶ中ヨリ前ヲ低ク
文化ノ前ハ旅商東下ノ
菅笠ヲ用ノ飛脚等頓ハ今モ二度笠ヲ用ユ

真竹篦ヲ以テ造ル
リ江戸ニテ造ル真竹
晴雨両用ニ後大笠
リ二尺四寸直径
二尺四寸真竹篦
笠ハ今名バッテウカサトモ

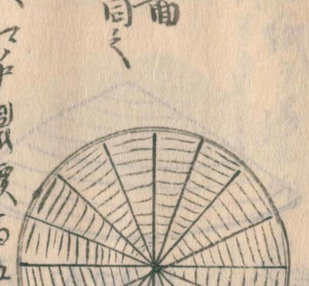
八千代篦押竹細ノ篦
我衣日上ヨリ八千代
押ヘトニテ上ノ止リ
倭ニ来江戸ニテ造ル
八千世八千代笠上面ノ如
面ノ如ク萌黄絽糸ノ
極テホソキヲ以テ縫ヘ

押竹ヲ粗ク我衣日延宝頃
笠小形ニ押竹ヲ粗ク
笠両天ニ用ユ篦ヲ造リタリ経
杉形笠下ル細竹ノミゴヲ
黒天鵞絨ヲ用ユ麻糸縫喜
造ル上物ニ頭ノ止リ紫革ヲ用ユ

裡左

右
裡ノ畨
今世同ク

我永日
竹笠出ル頃、江戸製ニ便百五十銭ニ百銭好ニ依テ金百疋迄惣テ価参縁ニ



上畨不許

正徳ヨリ寛保ノ間上方下リヲ用ヲ
我永古ク寛初ハ代銀二分位
正徳中代銀一分、蓋一文代銭六十四文
元文 代銭四十五文
寛保 代廿四文或ハ二十二文

我永ニ元文ヨリ内ノ竹ヲ黒塗ニス
細工至テ疎シ延享ヨリ内ノ竹ヲ
菊ニ九ニ至テ上作シ

騎射笠

騎射ニ用ヲ本トスレ共今ハ馬上往々被ヲ被テ遠乗等スル称ニハ歩行ニモ用ヲ蓋武士ノミ用ヲ真他ハ不用ヲ故ニ
ホトハ反ラス製モ形粗似ヲト雖モ是ハ
此笠ハ竹ノ身ヲ薄ク片キテ細代ニ綸ニタリ

京坂ニテバッテウ江戸ニテカゴヤ笠トス

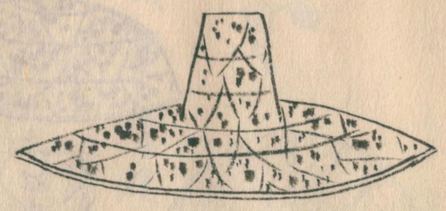
前ニ記ル直リ二尺四五寸ノ真簞笠ヲ京坂ニテ此大笠
ヲバッテウト云江戸ニテハ駕籠屋笠トス辻カゴヤキ
ノ夫用ヲ故名トス名チ四ツ手駕舁夫シ京坂ノカニカ
又ハ都ニ茶客ノ両中待合ヨリ茶堂ニ至ルニハ他ノ笠
及ビ傘ヲ用ヒズ必ラズ如此大簞笠シ亦モカニヤガサ
トハ其制ヲ異ニナル

蜻蛉笠

是モ真竹簞ノ粗製ニシ形畨ノ如ク一直リ尺許シ江
戸辺ノ船人等ノ用ヲ著テトンボカサト云因ニ
又京坂モ船人等用ヲ並トカワナニト訓ス

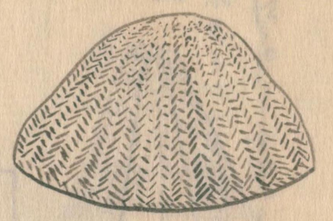
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

市女笠



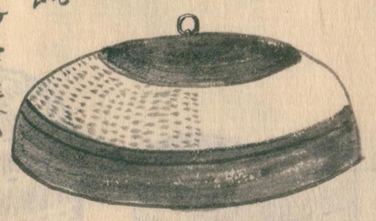
縉紳家武家ニ供奉ノ人雨中用ユ蓋堂上ヲ駕
輿丁仕丁等白張ニ烏帽子ノ時ノミ用ユ狩衣ニ烏帽子ノ時ハ用ユ狩衣ニ烏帽子ノ上ニ著ス
ベキ為ニ故ニ奴袴白張ヲ著セサル家ハ不用
真竹ノ撰粗製ナリ

竹網代笠



古来僧尼用ユ漆ヲ塗ルアリト雖トモ
素ヲ專用ユ或書曰天和以来大坂ヨリ漕
三都ニ僧尼ニ非ル物多シトス
帯僧尼ノミニ限リシガ寛永五六年ノ頃ヨリ俗人モ
菰カラ笠ニテ此形ヲ造リ風流ノ徒用ユ

六部ノ笠



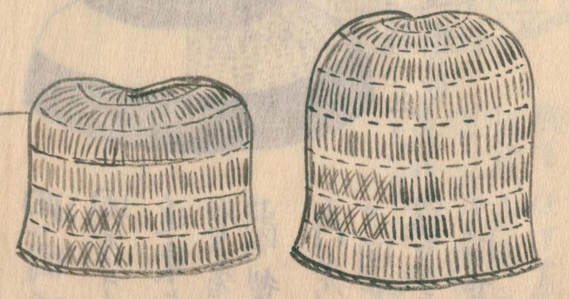
寛永ノ頃ニ回国ヲ業トスル者ノ此
絎布ヲ以テ此笠ニ非ズ此ノ
此笠ヲ用フルヲ以テ通例トス

週国循行者 俗ニ六十六部ト云 用ユ中央ト
周リヲ絎木綿ヲ以テ色ヲ不揃ヲ西サスシ
通来ヲ示ス等ニ因テ色ヲ不揃ヲ西サスシ
暦者モ用ユ
蘭製ノ笠シ

再考ノ此笠ノ中央ニ圓形ノ薄板ニ諸神佛ノ名
ヲ回書シ其表ヲ絎綿ヲ以テ包ミ覆フトシ故ニ中心
鏡アリテ脱ケ不ハ掛之テ直ニ不置之トシ名ハ古歌ニ此
ヲ描ケルニヨリ血製歟トセハ笠ガ誤リシ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

天盞



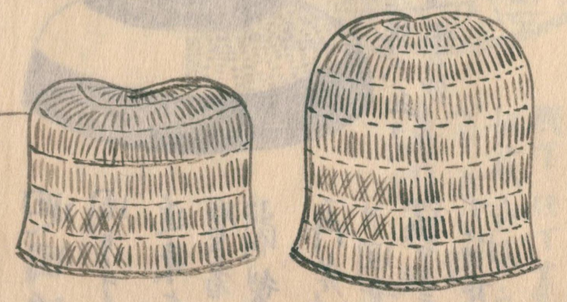
虚無僧三都ニ用ヒ笠ト云ズ天蓋ト云蘭製ス
元禄以前大ニ今ヨリ浅シ
享保以来小ニシテ深シ是今ノ形状
用ヒ来者唯薦僧ノミ

創製天蓋ト同クシテ大形ノ浅キ物ニ
今世神官ノ浪士用ヒ其妻女ニ
来銭ヲ乞者ハ亦同用ヒ
昔ハ武士宿行ニ用ヒ敵今世銭ヲ
不乞ノ浪士ハ不用ヒ今浪人所用此
此編笠ニ緩アリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

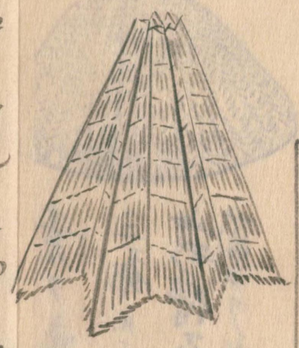
ガラス使用

天盞



虚無僧三都ニ用ヒ筮ト云ヒ其天蓋ト云ヒ苔蘭製シ元禄以前大ニ今ヨリ浅シ享保以来小ニシテ深シ是今ノ形状用ヒ来ル者唯薦僧ノミ

八ツ折編笠



大尽カムリシ又江戸ノ小児ノ弄物ニ細長キ割竹ノ頭ニテクルクルトマレトニホモトマレト吐ヒ売ル者モ用ヒ其三国民ノ業ナリ

此編笠ハ京坂ニ所無シ江戸行人多ク頭倩ニイヒ只八歌弐八時様ノ童謡ノ小冊ヲ読ヒ聞セ売アリ是ヲ読売トイフコトカリ其輩用ヒ京坂ノヨミウリ八手ヌ

今浪人所用此ハ稜アリ

今世銭ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

文久初頃ハ蘇笠 萬笠竈笠等ハ大略廃ニテ 饅頭形 撰笠 猪製ナルヲ用ユ
ハ丈ヨリ necessary 島笠ト号ル物ハ廃セズ 甚是ヨリ戸市或ノミ 其他甘家等概ネ故

追書 追来横濱開港以来 武備厳ナル故ニ従来駕ニテ登城ノ人モ
騎馬トナリ又普一文字或ハ殿中ヲ用ヒシモ 文久二年 官命ニテ
百重張或ハ 烟代 等ト称シ蓋大名及ト万石以下ニハ諸太夫以上ハ

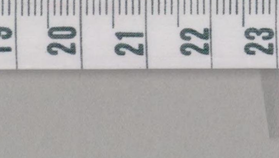
陣笠
烟代笠ニ
白陪番
ノ如キヲ
真ニ下ス

表白塗或ハ白ク赤キ黒漆又ハ裏惣金箔押諸太夫
以下布衣以上表黒漆裏前ノ方ニ四形ヲ金
ニテ描キ裡同前 布衣以下 侍ハ見ル以上ノ表藍
色裡ハ前金箔押 表前ノ方一四ヲ描ク内前
ハ 供笠 随意無意ニ 陪臣ハ有来リ 陣笠又

烟代駕 射笠ヲ用ヒ御供ハ前

百重張ノ陣笠ハ天正中ニ始テ製ス 紙ヲ多ク重ネルヲ故ニ百重張ト云
戦場ニ雑兵 専ニ草具足ヲ着頭ニ冑ヲ
大災ニ用ヒ 冬春ハ昔ハ草頭巾 今世ハ色
冬ニ春モ 陣笠ニ表白多キ 裡金箔多シ

吉子保以来 市民四時ニ用ヒ又防火
夫 組ノ名アリ いろは ノ陣笠ハ麁ナル竹
烟代ハ張ルニ墨渋ヲリ



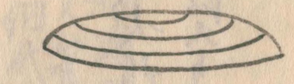
龍陣笠

今世ニ京坂ノ市民大所ニ皆陣笠ヲ用ヒ 防火夫ノ陣笠モ 如斯竹
烟代ノ紙張墨渋ヲリ 記 骨

今世ニハ市民及ビ防火夫ニ更ニ陣笠ヲ用ヒズ 武家ノ奴僕ハ 帰胡務ヲ以テ 描ク

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

今モ箆陣笠ヲ用ノ
緋ニテ如此シ



火所混雑ノ場ニ陣笠陣トナリテ自由ナラザル
ヲ故ニ不用ヤ近世大災厄ナルヲ故ニ衆人能調

編笠ノ一種

従来武家奴僕ノ笠用ヒ今モ赤用ヒ
ハチノ箆製押竹粗シ形小ニシテ径概ネ尺

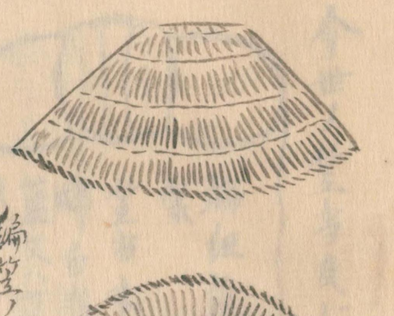
江戸ノ車力等毋ヲ動スコノ繁キ従ヘ此編笠ヲ用ノ蔺製無胃ヤリ蔺ノ餘リヲキラズ折及ヘ蓑製ヤリ

俗ニガテラ笠トモ

菅笠ノ一種

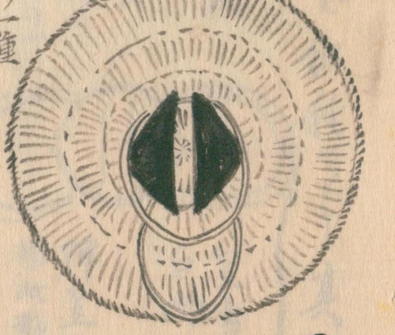
此二種或ハ蔺又ビ菅ノ餘リヲ斬キテ用フモアリ随意シ

駅舎ノ馬士舁夫等用ヒ此菅笠ヲ用ノ菅本ノ赤キ下品シ菅未ヲ切ラズ上ニ出スヤウニ切ラヒムルモアリ專ラ不切ニテ用フル者多シ



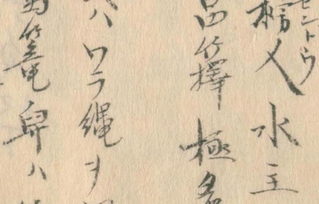
編笠ノ一種

毎政ニ変ノ能優更ニ用ヒ故此形廃絶又天保前ニ

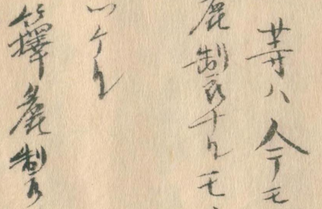


天保府命ノ時ハ芝居俳優ノカヲ出ル時ハ必ズ此編笠ヲカムラセテ以テ正民ニ別ツ雨中ニハ傘ヲ指テモ此笠ヲ携ヘシ今天保府命以前ハ無此事ニシ又近年制地ニテ不指ヲヤリ

天保以前ニモ京坂女形俳優ハ往来ノ時又ハ前面浪人ノ用ヒ編笠ヲ着セリ



再出



箆ヲアル蓑笠ノ浅ノ大形ナルヲ俗ニハツテ西力[illegible]ト名ノ

又ハヒヨリ形大ニシテ裏タ浅シ

フレヒコヨリ驚箆蓑製ハ箆ヲ用

又ハヒノ箆縄或ハワラ縄ヲ

組モ箆ニテ極麁製ナルモノヽシ

濮父釣夫 蓑笠ヲ着ス

真行アル士品ヲ下品ヲ竹笠トス

橋人(セッドウ) 水主 荷ハ今モ時用ヒ

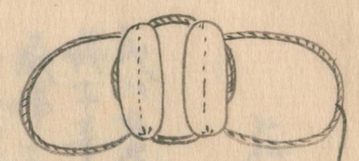
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

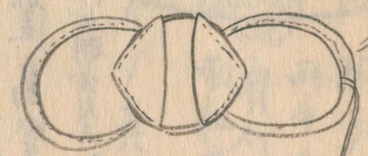
月関笠　極上製ハ価金一分二朱ハカリ
駿製割竹笠　初価金二分弐八二分　後陣ノ賤ノ今ハ凡一分ハカリ
藤笠　同断
島笠　価金一分二朱ハカリ　模造ハ銀五六分ヨリ
菅笠
菊籠笠　価金一分

一文字菅笠　茅ノ紐ハ
前番　真中ノ割ト
同ノ一分ノ長キヲ用ユ
前掛ノ方ヲ腮下ニカケ
両端ヲ此番ノ如ク口ノ
下ニ結フ

今世ノ笠当及ビ紐種々アリ　其大略ヲ挙ク

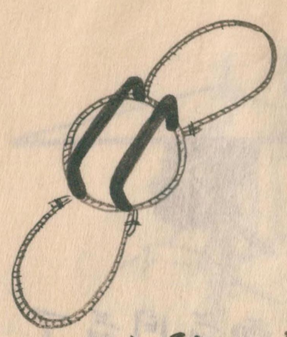


掛紐ハ
製
笠当木
綿白或ハサラサ
藍又ハサラサ
等モアリ



笠当紐ニ
白晒木綿
二番ノ如キ笠当ヲ枕トス
旅客菅笠ニ用フル物ノ事ヲ
此形シ
陣笠ニハ専ラ
用ユ形シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



紐ヲ前後ニ掛ケ北月掛ヲ口ノ下ニ掛ケ北月掛ヲ口ノ下ニ掛ケルナリ

脱ント欲ス時背掛ニ指ヲカケ耳ヲハツセバ前ニ脱ル其順ヒヤラサルガ故ニ市中ヲ窺ル笠ハ追手ニ事ヲ用ヒズ 蓋笹笠ハ用ヒズ

枕来朝ノアニヘラ 弐八黒天鵞絨茅ヒ組ナルハ本綿モアリ

弘化紫新製ニ掛及ビ紐ハ細キ割タル竹ニ割籐ヲ巻ケリ来朝ノ茂シ紐ノ用ヒ様口前ス

又枕ヲ用ヒズ代ヲ ┐ 如此竹ノ表ヲ黒天鵞絨ヲ以テ縫ヒ色メリ頭上ニ川ヲ通スヲヲ要ス是亦菅笠ニ茅ニ用ヒズ

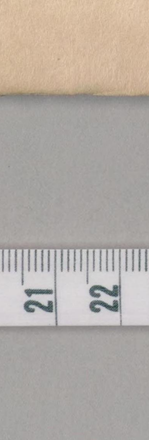
藤笠 島笠 日覆笠茅ニ事ヲ用ヒズ

弘化前ヨリ人ヲリ鯨髭ノ製物アリ此製ニ有テ後鯨製廃ス

花笠

今世女児茅ノ京坂ニテ舞ト云ヒ江戸ニテ踊リト云種々ニ称ス故ニ銭ニ合セテ歌舞ス其称ニ據テ花笠ヲ両手各一ヲ持テ舞踊ル肩竹ニ銀箔ヲ押シ所々ニ紙ノ造リ花ヲツケ錦縮面紅茅ヲ有ル

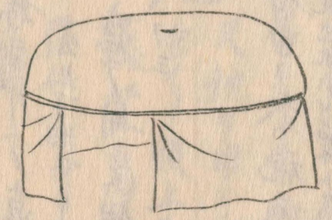
弐八拳踊リ称ニヨリテ頁ノ笠ニ花ヲ付ケズ傘子茅ヲ張テ中ムルニモアリ弐八市女笠ノ形ノ歌舞ニテ右ノ製ニアリ各称ニル戯場ノニテモ称ニ據テ用ヒ但京坂ニテ景事江戸ニテ所作狂言ハカチ舞踊也女児ハ学ブベシ



又江戸山王神田ノ祭祀ニハ誓固ノ衆人各一文ハ皆ニ模造花笠ヲ付テカムルシ他人ト混セザル標トス故ニ家主町役人ト雖モ祭礼ニテコトヲ為ノ者ハ笠形皆ノ来錦リ散リタル物ヲ画者前

日時

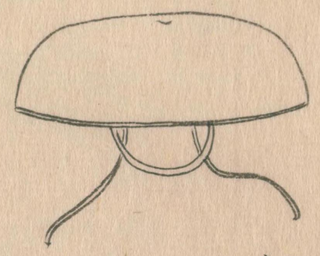
手掘前ニテヲヘト訓ス 笠車ヲ遣ル舊ヨリ車前ニ舞ヲ上ニ木遣音頭トヲヨリサヲヲ笠ヲ用ヒ牛ヒキ用ヒシ車一両ニ牛ヲ以テ曳ベシ



大坂ノ市中ヲ巡リ銭ヲ受ル任吉踊リハ願人坊主ト云僧形ノ物貰ヒニシ其ハ所用笠番ノ如リ笠ノ周リニ歯木綿ヲ垂テ前ヨリ小ク除ケリ是ヘ前ニ云ル出ノ垂絹ノ遺意ニ似タリ

今世ニ都ヒ婦女旅行ニ非ハ笠ヲ用ヒズ市中ニハ晴雨共ニ今笠ヲ用ヒ今世ニ旅行ニハ江都ヒニ右衛ノ菅笠ヲ用ヒ

菅笠（スゲ）



江都ヒ旅行ノ婦女又ヒ田舎ノ婦女田植其他農事ヲ営ム時此菅笠ヲ用ヒ

笠当芙ナルハ黒天鵞絨茅粗ナルハ浅黄木綿ニシテ三四寸ノ綿入角前圓シ

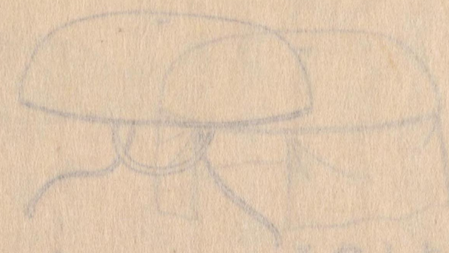
紐ハ白木綿ヲ裏トニ浅木綿モアリ脛ニクケヒモニシ一條ヲ用ヒ前ヨリ喰ニナシテノ脇ニカケ両端ノ方ヲ北日ヨリ口ノ下ニ結ブ両端皆ニテノ左右ヲ寸遠ハス又此ニシ耳ノ後日ヨリ前ニ口下ニ結ビ

今世ニ江戸ノ女太夫ト名ケル二線ヲ弾キ唄ヒテノ妻女ヒ弁ク皆紅粉ヲ施ヒ新ニキ綿服ヲ着ハ往々美女アリ彼徒ノ市中ニモ四時右ノ菅笠ヲ用ノ紅口製ハ浅黄木綿作ノ紐ニ蓋正月元日ヨリ大概午月ノ間ハ鳥追ト号ヒ三線唱歌ヲ異ニス其時ハ菅笠ヲ用ヒズ前垂ノ編笠ヲ用ヒ正月午過ヨリ再ヒ菅笠ニ後ハ市店ヲ巡リ銭ヲ乞フ非人

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

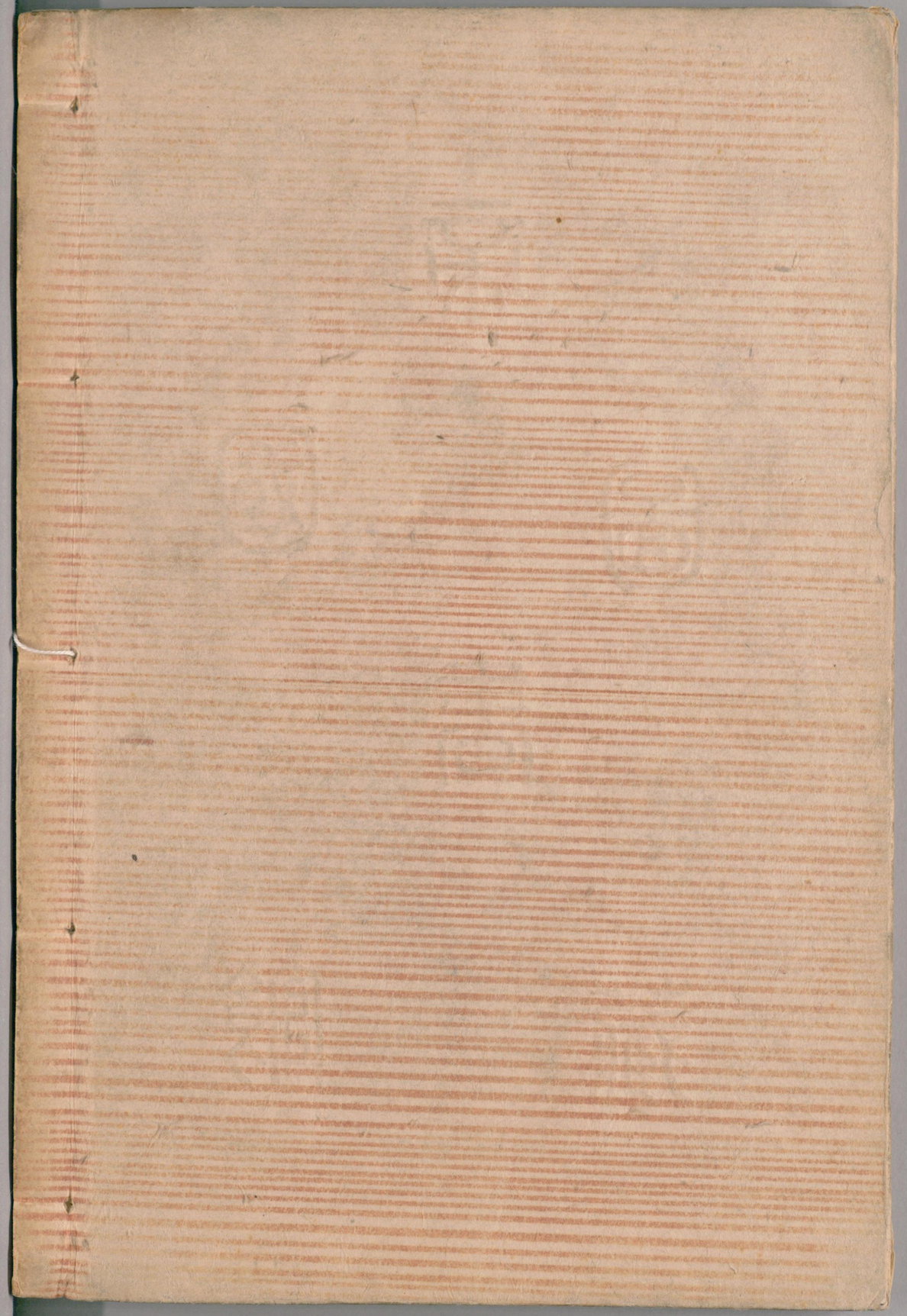
ガラス使用

30
15



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用